

## 2020 年度 研究所事業報告書

研究所名	白川静記念東洋文字文化研究所
------	----------------

## I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究所・センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究所総合計画(5 ヵ年)および 2019 年度重点プロジェクト申請調書に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこなうできるだけわかりやすく記述してください。なお、2019 年度に採択を受けた研究所重点プロジェクトの実績報告は、書式 B に記述のうえ提出してください。

1) 学術研究事業（各運営委員や研究員による個別の研究のほか、研究所として以下の活動を行った。）

- ①2020 年度は白川静博士の生誕 110 周年にあたる。これを記念する企画として、白川研究所が企画を務めた 2020 年 9 月の立命館土曜講座（主催は衣笠総合研究機構）では、漫画家の岡野玲子氏を講演者として招き、「歴史の謎を解くカギとしての白川文字学～岡野玲子 漫画作品の制作から～」のテーマで講演いただいた。参加者には、これまで白川研究所の企画へ参加したことがない方も多く、新たに博士の功績や当研究所の認知を高める機会となった。
- ②同じく白川静博士生誕 110 周年記念として、本学の平井嘉一郎記念図書館内にて企画展示「白川静博士の学問と生涯—新寄贈の資料類を中心として—」を開催した。博士の手稿や著書および勲章や顕彰状などを展示し、来場者の方には白川博士の学問と生涯の一端に触れ、「白川学」に関心を寄せていただく機会となった。
- ③月 1 回開催している漢字学研究会は 2020 年度も継続して活動を行い、緊急事態宣言下での中断を挟みながらも計 9 回開催した。その成果については、『漢字学研究』第 8 号としてまとめ、2020 年 10 月に刊行された。
- ④2019 年度に当研究所が購入した江戸幕府の紅葉山文庫に関する資料『別本 御書物方年譜覚書』の解説を主とする研究会を行い、この資料には、国立公文書館に所蔵される『御書物方日記』に失われた記載を伝える箇所があることを解明した。その成果の一部を『白川静記念東洋文字文化研究所』第 14 号（2021 年 3 月刊行）にて発表した。
- ⑤「日中韓漢籍研究」プロジェクトの研究成果報告会を 2020 年 3 月 20 日にオンラインで開催した。
- ⑥高島敏夫客員研究員による連続公開講座を、「西周前期の雄篇《毛公鼎》の銘文を読む」と題して、11 月 28 日、3 月 13 日、3 月 27 日と 3 回にわたって開催した。

2) 文化事業

- ①体験型漢字講座「漢字探検隊」について、2020 年度は当初全国各地で開催予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて大半が中止となり、京都府と福島県の 2 府県のみで開催となった。今後は現在の環境下でも継続できるよう WEB での講座開催を計画中である。
- ②2011 年度に創設した「漢字教育士」資格認定事業は昨年度で 10 年目を迎え、その認定者数は 2021 年 3 月末で累計 799 名となり、その活動拠点は全国そして海外に広がっている。また、学生・大学院生の認定者増加を目指し、学園予算措置を講じて、本学学生・大学院生を対象とした同講座の無料受講制度を 2020 年 11 月より開始した。キャンパスの特色を活かした教育支援の一環であり、「立命館で学ぶ」ことの意義を有するものである。
- ③産経新聞社との共催による「第 11 回創作漢字コンテスト」は、全国から 2 万 6 千点以上の応募があった。前回に続き小・中の学校単位での応募が多く、とりわけ今回は初めて台湾の小学校から学校単位の応募があり、本事業が海外でも認知され新たな展開を見せ始めていることは大きな変化である。
- ④白川静博士の生誕 110 年記念活動の一つとして「古代文字ダンス（古代文字之舞）」動画を制作した。「古代文字ダンス」は、古代文字を身近なものとし、漢字の成り立ちやつながりについて、ダンスを通して「体感」することを目的としており、今後は教育現場などでの活動が期待される。
- ⑤立命館学園附属校では、各附属校教員による「白川式漢字学習法ワーキング」の活動が行われ、編集を続けてきた『成り立ちで学ぶ漢字ワークシート 35』の第 3 集が 2020 年 6 月に刊行された。また、立命館小学校では、漢字学習の中で「白川漢字」を全学年で導入されることが決定し、実践が開始された。

## II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2021年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位	
研究所長・センター長	芳村 弘道	文学部	特任教授	
運営委員	上野 隆三	文学部	教授	
	大形 徹	衣笠総合研究機構	特別招聘研究教授	
	桂島 宣弘	文学部	特任教授	
	松本 保宣	文学部	教授	
	石井 真美子	文学部	教授	
	萩原 正樹	文学部	教授	
	小椋 秀樹	文学部	教授	
	杉橋 隆夫	衣笠総合研究機構	研究顧問	
	加地 伸行	衣笠総合研究機構	研究顧問	
	前田 亮	情報理工学部	教授	
	湊 宣明	テクノロジー・マネジメント研究科	教授	
	後藤 文男	教職研究科	准教授	
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	中本 大	文学部	教授	
	川崎 佐知子	文学部	教授	
	金津 日出美	文学部	准教授	
	長谷川 昭	立命館小学校	校長	
学内の若手研究者	① 専門研究員 研究員 初任研究員	富 嘉吟	衣笠総合研究機構	専門研究員
		Biligaikhan BATJARGAL	衣笠総合研究機構	専門研究員
	② リサーチアシスタント			
	③ 大学院生	石川 大我	文学研究科	博士課程前期課程
		稲田 琴美	文学研究科	博士課程前期課程
		宮本 紗代	文学研究科	博士課程後期課程
		許 曉璐	文学研究科	博士課程後期課程
		田中 京	文学研究科	博士課程後期課程
		猪俣 貴幸	文学研究科	博士課程後期課程
		愛新覚羅凱和	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		中西 健太	文学研究科	研修生
		池嶋 美帆	文学研究科	研修生
	④ 日本学術振興会特別 研究員(PD・RPD)	草野 友子	立命館大学	日本学術振興会特別研究員 (RPD)
	その他の学内者	山田 崇仁	文学部	非常勤講師 (白川研客員研究員)
高島 敏夫		文学部	非常勤講師 (白川研客員研究員)	

(補助研究員、非常勤講師、研究生、研修生等)	落合 淳思	文学部	非常勤講師 (白川研客員研究員)
	佐藤 信弥	文学部	授業担当講師(白川研客員研究員) 大阪府立大学客員研究員
	斬 春雨	立命館アジア・日本研究機構	補助研究員
	今場 正美	産業社会学部	非常勤講師
	松尾 肇子	文学部	授業担当講師
	佐古 愛己	文学部	授業担当講師、佛教大学准教授
	花田 卓司	文学部	非常勤講師 (白川研客員研究員) 帝塚山大学専任講師
	秋山 陽一郎	文学部	授業担当講師 (白川研客員研究員)
客員協力研究員	張 莉(出野文莉)	大阪教育大学教育学部	准教授
	笠川 直樹	京都精華学園	理事
	末次 信行	千里金蘭大学教養教育センター	教授
	名和 敏光	山梨県立大学国際政策学部	准教授
	高田 宗平	中央大学文学部	兼任講師
	上島 理恵子		なし
	阪谷 昭弘	花園中学高等学校	教諭
	村上 幸造	大阪工業大学工学部総合人間学教室	客員教授
	重信 あゆみ	大阪府立大学	客員研究員
	高橋 あやの	関西大学東西学術研究所	非常勤研究員
	洲脇 武志	愛知県立大学日本文化学部国語国文学科	准教授
	白須 裕之	京都大学人文科学研究所	助教
	大野 裕司	大連外国語大学日本語学院	外籍教師
	松宮 貴之	佛教大学	非常勤講師
	臧 克和	華東師範大学	終身教授
	庄 婕淳	中国惠州学院	講師
	安永 知晃	関西学院大学	非常勤講師
	松川 雅信	日本学術振興会	特別研究員(PD)
	井ノ口 哲也	東京学芸大学教育学部	准教授
	梁 曉虹	南山大学総合政策学部	教授
	山田 明広	奈良学園大学人間教育学部人間教育学科	准教授
	多田 伊織	大阪府立大学	客員研究員
	楊 冰	大阪府立大学	非常勤講師
	張 宇衛	台湾大学中国文学系	助理教授
	余 筠珺	台湾大学中国文学系	助理教授
三輪 健介	岡山大学社会文化科学研究科	客員研究員	

	詹 千慧	国立彰化師範大学国文学系	専案助理教授
	魯 耀翰	高麗大学漢字漢文研究部	研究教授
	王 川	安徽農業大学	日本語教師
その他の学外者	村田 右富実	関西大学	教授
	笹原 宏之	早稲田大学	教授
	住吉 朋彦	慶應義塾大学	教授
	沈 慶昊	高麗大学校	教授
	金 程宇	南京大学	教授
研究所・センター構成員 計 73 名 (うち学内の若手研究者 計 12 名)			

### Ⅲ. 研究業績（公開項目） ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2021年3月31日時点)  
また、書式Bの研究業績欄との二重記載をお願いいたします。

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	大形 徹	『不老不死 仙人の誕生と神仙術』	単著	2021年2月	志学社		全216頁
2	石井真美子	銀雀山漢墓竹簡〔貳〕論政論兵之類 譯注	共著	2021年1月	朋友書店	村田進、山内貴	
3	萩原 正樹	日中韓文人交流と相互理解—明治大正期の詩詞を通して	共著	2020年11月	あるむ	周志煌、汪超等	PP.37-59 PP.221-245
4	落合 淳思	漢字の構造	単著	2020年7月	中央公論新社		全325頁
5	佐藤 信弥	デジタル時代の中国学リファレンスマニュアル	共著	2021年3月	好文出版	漢字文献情報処理研究会	PP.223-226
6	佐藤 信弥	戦争の中国古代史	単著	2021年3月	講談社		全282頁
7	名和 敏光	前近代東アジアにおける〈術数文化〉	共著	2020年3月	勉誠出版	水口幹記主編	PP.43-51
8	名和 敏光	漢帝国の遺産 道教の勃興	共訳	2020年10月	東方書店	三浦国雄・田訪監訳、姜生著	PP.233-333
9	臧 克和	《讀字錄》三冊	単著	2020年12月	上海古籍出版社	無	PP.1409
10	庄 婕淳	『世界の中の和歌—多言語翻訳を通して見る日本文化の受容と変容』	共著	2021年2月	日本古典文学多言語翻訳研究会	フィットレル・土田久美子編	PP.27, PP.81
11	松川 雅信	日本書紀1300年史を問う	共著	2020年6月	思文閣出版	山下久夫・斎藤英喜編	PP.253-273
12	松川 雅信	儒教儀礼と近世日本社会—關齋学派の『家礼』実践	単著	2020年7月	勉誠出版		PP.1-440

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	芳村 弘道	“古筆切”之李善注本《文選》	単著	2020年11月	中華書局, 国学研究第44巻	靳春雨(中国語訳)	PP.93-107	無
2	芳村 弘道	立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所所蔵の朝鮮本『選賦抄評註解刪補』について	単著	2021年3月	『立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所紀要』, 第15号		PP.51-60	無
3	川崎佐知子 芳村 弘道 中本 大	翻刻『別本 御書物方年譜覚書』(其の一)	共著	2021年3月	『立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所紀要』, 第15号		PP.89-107	無
4	芳村 弘道	朝鮮渡り唐本の研究について	単著	2021年3月	成均館大学校大東文化研究院, 『大東文化研究』113輯	魯耀翰(韓国語訳)	PP.11-37	有
5	杉橋 隆夫	北条時政請文	単著	2021年2月	勉誠出版, 『古文書への招待』	日本古文書学会編	PP.57-59	無
6	杉橋 隆夫	北条政子書状	単著	2021年2月	勉誠出版, 『古文書への招待』	日本古文書学会編	PP.63-65	無
7	杉橋 隆夫	「かな」「まな」と「和字」「漢字」—北条泰時書状を手掛かりに—	共著	2021年3月	『立命館白川静記念東洋文字文化研究所紀要』, 第14号	上島理恵子	PP.61-75	有
8	大形 徹	日本の「本」はどのような意味か。	単著	2020年10月	立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所, 『漢字学研究』, 第8号		PP.75-86	有
9	大形 徹	戴山青と現代書法	単著	2021年1月	『書法漢学研究』, 第28号、アートライフ社		PP.34-42	無

10	大形 徹	富岡鉄斎と洞天福地	単著	2021年3月	『洞天福地研究』第10号		PP.94-115	無
11	松本 保宣	「五代後唐期の中興殿と延英殿—五代聴政制度初探—」	単著	2020年8月	『立命館東洋史学』43		PP.1-52	有
12	松本 保宣	「隋・唐・五代洛陽宮の政治空間について」	単著	2020年12月	氣賀澤保規編『隋唐洛陽と東アジア』		PP.167-193	無
13	萩原 正樹	人と文学にひたる喜び：『范成大詩選』	単著	2020年6月	立命館アジア・日本研究学術年報第1号		PP.141-143	無
14	萩原 正樹	【資料紹介】近藤南州手記「詩余」	単著	2020年7月	学林第70号		PP.95-112	有
15	萩原 正樹	詞籍「提要」訳注稿(十)	共著	2020年12月	風絮第17号	松尾肇子等	PP.132-142	有
16	萩原 正樹	龍榆生編選『唐宋名家詞選』訳注稿(十五)	共著	2020年12月	風絮第17号	松尾肇子等	PP.219-237	有
17	Akira Maeda	A Preliminary Attempt to Evaluate Machine Translations of Ukiyo-e Metadata Records	共著	2020年12月	Proceedings of The 22nd International Conference on Asia-Pacific Digital Libraries (ICADL 2020)	Yuting Song, Biligsaikhan Batjargal	PP.262-268	有
18	Akira Maeda	Artwork Information Embedding Framework for Multi-source Ukiyo-e Record Retrieval	共著	2020年12月	Proceedings of The 22nd International Conference on Asia-Pacific Digital Libraries (ICADL 2020)	Kangying Li, Biligsaikhan Batjargal, Ryo Akama	PP.255-261	有
19	Akira Maeda	Character Segmentation in Asian Collector's Seal Imprints: An Attempt to Retrieval Based on Ancient Character Typeface	共著	2021年1月	Journal of Data Mining and Digital Humanities, Vol. Histoinformatics	Kangying Li, Biligsaikhan Batjargal	PP.1-19	有
20	中本 大	「和」と「漢」のはざま—連歌における漢詩文受容の側面—	単著	2020年12月	立命館大学日本文学会、論究日本文学(113)		PP.1-13	招待
21	中本 大	西教寺の閩版	単著	2021年1月	国文学研究資料館、国文研ニュース,58		PP.3-4	招待
22	草野 友子	北京大學藏秦簡牘『教女』譯注	単著	2020年7月	中國藝文研究會、『學林』,第70号		PP.66-94	有
23	山田 崇仁	王子午鼎	単著	2020年10月	立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所、『漢字学研究』,第8号		PP.21-35	有
24	高島 敏夫	金文にみる古代語の文字表現(一)序論なぜ古代語なのか	単著	2021年3月	『立命館白川静記念東洋文字文化研究所紀要』第14号		PP.29-50	無
25	落合 淳思	漢字の成り立ちと用字法に関する分類	単著	2020年6月	日本漢字学会報 第2号		PP.59-71	有
26	落合 淳思	河南安陽市殷墟大司空村出土刻辞牛骨	単著	2020年10月	立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所、『漢字学研究』,第8号		PP.5-20	有
27	佐藤 信弥	二〇一八年 古文字学論著目	共著	2020年10月	立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所、『漢字学研究』,第8号	横大路綾子	PP.175-189	無
28	靳 春雨	山口剛と詞—「槐南朱批『梧桐雨』と『荷塘印影』を手がかりとして	単著	2020年7月	中国芸文研究会、『学林』第70号		PP.46-65	有
29	秋山陽一郎	説苑序録訳注稿	単著	2020年3月	大阪府立大学人文学会、人文学論集、38集		PP.67-81	有

30	秋山陽一郎	保員簋	単著	2020年10月	立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所、『漢字学研究』、第8号		PP.37-43	有
31	笠川直樹	古文字学研究文献提要	共著	2020年10月	立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所、『漢字学研究』、第8号	山田崇仁、村上幸造、佐藤信弥氏	PP.166-170	有
32	名和敏光	堪輿占考	単著	2020年3月	前近代東アジアにおける〈術数文化〉		PP.43-51	無
33	名和敏光	“諾皋”考	単著	2020年8月	出土文献語言研究3		PP.105-128	有
34	名和敏光	第三章 漢代仙譜考	単訳	2020年10月	漢帝国の遺産 道教の勃興		PP.233-333	無
35	名和敏光	“皋”與“罽”(修訂版)	単著	2021年2月	楚文化與長江中游早期開發國際學術研討會論文集		PP.374-378	有
36	高田宗平	新刊紹介 榎本淳一・吉永匡史・河内春人編『中国學術の東アジア伝播と古代』(アジア遊学242、勉誠出版、2020年1月)	単著	2020年12月	史学会、史学雑誌、129編12号		PP.81-82	依頼有
37	高田宗平	漢籍受容の形態としての「取意略抄」—国立歴史民俗博物館所蔵反町茂雄旧蔵典籍古文書『貞観政要一節』をめぐって—	単著	2021年3月	中央大学文学部、紀要、278号(哲学、63号)		PP.23-40	無
38	村上幸造	甲骨文法—陳夢家『殷虚卜辭綜述』第三章文法(下)(翻訳)	単著	2020年10月	立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所、『漢字学研究』、第8号		PP.125-153	有
40	白須裕之	『文史通義』内篇三譯注	共著	2020年12月	京都大学人文科学研究所、東方學報、95	『文史通義』研究班	PP.265-269	有
41	松宮貴之	小学校中高学年に於ける小筆指導の本格的試論—水書から毛筆への接続と中国に於ける小筆指導との比較、及び芸術科書道への展望という視角を具えて	共著	2021年4月	東京学芸大学書道教育研究会『東アジア書教育論叢7号』	里陸斗、丁磊	PP.75-83	有
42	松宮貴之	董其昌に於ける陽明学と禪理解に基づく書画論に就いての考察	単著	2021年3月	有限会社アートライフ社『書法漢学研究28号』		PP.9-21	有
43	松宮貴之	在董其昌「畫禪室隨筆」里看見的禪思想和向日本的傳播	単著	2020年11月	書画藝術學刊29卷(國立台灣藝術大學)		PP.1-12	有
44	松宮貴之	安岡正篤著『三国志と人間学』と政局の展開とその整理	単著	2020年9月	日本政治学会 ポスターセッション			有
45	松宮貴之	『朱子語類』に見られる「下学上達」の「熟」思想と『書譜』に就いての一考察	単著	2020年6月	汲古(77)古典研究会 編		PP.34-39, 50	有
46	松宮貴之	一九五五年の郭沫若の訪日と漢詩「箱根即景」	単著	2020年6月	郭沫若研究会報(23)		PP.17-21	有
47	松宮貴之	高等学校「芸術科〈書道II〉」に於ける「漢字」【表現】【鑑賞】を通じての国際的意義と、東アジアコミュニケーション	共著	2020年4月	東京学芸大学書道教育研究会『東アジア書教育論叢6号』	丁磊	PP.81-88	有

		ヨンとしての席上揮毫についての試論						
48	臧 克和	“邪馬臺”か、それとも“邪馬臺”か？	単著	2020年10月	立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所、『漢字学研究』、第8号		全文	有
49	庄 捷淳	『とりかへばや物語』の中国語訳の試み	単著	2020年3月	『海外平安文学研究ジャーナル7号』		PP.32~51	無
50	庄 捷淳	林文月訳『源氏物語』	単著	2020年12月	『海外平安文学研究ジャーナル《中国編》』		PP.63~78	無
51	松川 雅信	書評：桂島宣弘著『思想史で読む史学概論』	単著	2020年6月	立命館大学アジア・日本研究所『立命館アジア・日本研究学術年報』1号		PP.132-134	無
52	松川 雅信	書評：中嶋英介著『近世武士道論—山鹿素行と大道寺友山の「武士」育成』	単著	2021年3月	日本経済思想史学会『日本経済思想史研究』21号		PP.139-142	無
53	井ノ口哲也	劉歆の学問	単著	2020年6月	勉誠出版、『漢学とは何か—漢唐および清中後期の学術世界—』（アジア遊学249）	川原秀城（編）	PP.14-25	無
54	梁曉虹	以兼意「四抄」兩大系写本為中心考察平安時代漢字特色	単著	2020年7月	『国際中国文学研究叢刊』第八集、上海古籍出版社		PP.67-85	有
55	梁曉虹	天理本、六地藏寺本『大般若経音義』之比較研究—以訛俗字為中心	単著	2020年10月	中国社会科学院語言研究所『歴史語言学研究』、第14輯、商務印書館		PP.25-42	有
56	梁曉虹	日本早期仏経音義特色考察—以『大乘理趣六波羅蜜経釈文』為例	単著	2020年11月	『文献語言学』第11輯、中華書局		PP.106-118	有
57	梁曉虹	『大般若経音義』疑難異體字例考（上）	単著	2020年11月	『東亜文献研究』第25輯、Chunju:China House		PP.1-18	無
58	梁曉虹	日本保延本『法華経单字』漢字研究	単著	2020年11月	『跨文化視野与漢字研究』第2輯、社会科学文献出版		PP.127-152	有
59	梁曉虹	『大般若経音義』疑難異體字例考（中）	単著	2021年1月	『東亜文献研究』第26輯、Chunju:China House		PP.1-22	無
60	三輪 健介	金文通解 聆簋	単著	2020年10月	立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所、『漢字学研究』、第8号		PP.45-59	無

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	芳村 弘道	朝鮮渡り唐本の研究について	2020年11月	成均館大学校大東文化研究院国際会議「東亜文献学的全視角—資料環流與書目收藏—	
2	大形 徹	巫術と占い—巫・筮・鑿	2021年3月	巫俗と占術の現在—東アジア世界の民俗信仰の伝播と展開 日本文化研究センター、オンライン	
3	松本 保宣	延英殿と宰相処罰—唐文宗朝の疑獄事件周辺—	2020年12月	六朝史研究会	
4	萩原 正樹	近藤元粹の詞学	2020年11月	上海大学海外漢学家高端論壇	
5	萩原 正樹	近藤元粹の詞学について	2020年11月	立命館大学アジア・日本研究所「日中韓詞学文化交流研究会」	
6	萩原 正樹	和刻本『事林廣記』に見える詞について	2021年3月	白川研第二研究プロジェクト「日中韓漢籍研究」及び科研費「朝鮮渡り唐本の総合的研究」2020年度研究成果報告会	
7	小椋 秀樹	近代における字音否定接頭辞「非・不・未・無」の使用実態	2020年8月	研究発表会「昭和・平成書き言葉コーパスによる近現代日本語の実証的研究」	
8	Akira Maeda	Making Ukiyo-e Easier to Discover: A Recommender System for Digital	2020年7月	Conference Abstracts of Digital Humanities 2020 (online)	Jiayun Wang, Biligsaikhan Batjargal, Kyoji Kawagoe, Ryo Akama

		Archives			
9	Akira Maeda	Finding Identical Ukiyo-e Prints across Databases in Japanese, English and Dutch	2020年7月	Conference Abstracts of Digital Humanities 2020 (online)	Yuting Song, Biligsaikhan Batjargal
10	Akira Maeda	Toward Exploring Artist Information from Seal Images in Ukiyo-e Collections	2020年7月	Conference Abstracts of Digital Humanities 2020 (online)	Kangying Li, Biligsaikhan Batjargal, Ryo Akama
11	前田 亮	浮世絵レコードのクロスモーダル多言語横断検索に向けて: Multilingual-BERTによる作品情報の特徴埋め込み抽出の試み	2021年2月	第10回知識・芸術・文化情報学研究会(オンライン)	Li Kangying, Batjargal Biligsaikhan, 赤間 亮
12	前田 亮	深層学習モデルに基づく浮世絵画像検索システムの開発	2021年2月	第10回知識・芸術・文化情報学研究会(オンライン)	王 嘉韻, Batjargal Biligsaikhan, 川越恭二, 赤間 亮
13	川崎佐知子	『別本 御書物方年譜覚書』について	2021年3月	白川研第二研究プロジェクト「日中韓漢籍研究」及び科研費「朝鮮渡り唐本の総合的研究」二〇二〇年度研究成果報告会、立命館大学衣笠キャンパス(京都市北区)およびZOOMによるオンライン開催	
14	草野 友子	北大秦簡『教女』について	2020年7月	中国藝文研究会及び『學林』第69号合評会、立命館大学・zoom(オンライン)	
15	草野 友子	北大秦簡『教女』からみる中国古代の女性観	2021年3月	中国出土文献研究会・第73回研究会, zoom(オンライン)	
16	山田 崇仁	『歴代三寶紀』帝年に記される周王の諡號・諱について—佛敎史書に記される先秦史關連資料研究の一環として—	2020年10月	東アジア文化交渉学会 於: 鄭州大学(中国) オンライン開催	
17	高島 敏夫	金文にみる古代語の文字表現(一) 序論 なぜ古代語なのか	2021年11月	初期漢字研究会第59回	
18	落合 淳思	上古漢語の複声母説と漢字の構造について	2020年11月	アジア・アフリカ言語文化研究所 共同利用・共同研究課題「アジア文字研究基盤の構築(2)—文字学に関する既存術語の再検討」	
19	佐藤 信弥	韓伯豊鼎銘と西周時期王命記録的变化	2020年11月	中国古文字研究会第23届年会、オンライン	
20	佐藤 信弥	殷周間における祭祀關係文字の継承	2020年11月	第12回東アジア文化交渉学会、オンライン	
21	佐藤 信弥	[女受] 鼎銘より見る女性による家産管理—西周ジェンダー論への展望	2020年11月	2020年度日本秦漢史学会大会(第32回大会)、オンライン	
22	佐藤 信弥	天命は誰のものか—金文に見える天と天命—	2021年2月	東アジア恠異学会第129回定例研究会「天の思想・再考」、オンライン	
22	靳 春雨	『詞綜』と日本の知識人たち—その旧蔵者をめぐって	2020年7月	中国芸文研究会、衣笠キャンパス	
23	靳 春雨	「日本における詞学(宋代の中国詩)の受容と研究」	2020年12月	第26回AJI研究最前線セミナー、Zoomにて開催	
24	靳 春雨	「白川研第二研究プロジェクト「日中韓漢籍研究」及び科研費「朝鮮渡り唐本の総合的研究」2020年度研究成果報告会	2021年3月	Zoomにて開催	
25	張 莉	書道作品発表「甲骨文字集句、風雲共舞」	2020年10月	第35回記念海外特別招待作家展(京都市京セラ美術館、隨風会主催)	
26	張 莉	書道の異文化交流を備えたグローバル中国旅行の旅	2020年11月	『美術科研究』第38号PP.113~119(大阪教育大学美術・書道教育部門)	
27	張 莉	認字教育と「漢字に成り立ち」教育課題	2021年3月	『研究紀要』第26集PP.40~41、日本教育大学協会全国書道教育部門	

28	張 莉	書道作品発表「王昌齡詩」	2021年3月	『研究紀要』第26集 PP.59、日本教育 大学協会全国書道教育部門	
29	重信あゆみ	「試論刻画符号」	2021年1月～ 2月	第三屆漢字學國際冬令營、オンライン	
30	庄捷淳	『後撰集』175番歌と『古今集』469番歌の中国語訳	2020年9月	研究会「世界の中の和歌—多言語翻訳を通して見る日本文化の受容と変容—」	フィットレル・土田久美子
31	松川 雅信	上総道学研究的現在	2021年3月	千葉歴史学会近世史部会3月例会	石井七海
32	松川 雅信	なぜ「文戦」だったのか： 李暁源「文明と武威—通信使交流と荻生徂徠」を受けて	2021年3月	東アジア思想文化研究会 企画研究会 「朝鮮使節から見る中国・日本—17・18世紀東アジアの思想文化交流」	
33	松川 雅信	十五年戦争期の閩齋学派研究—平泉澄と阿部吉雄をめぐって	2021年3月	学知史研究会第4回例会	
34	三輪 健介	季姫方尊	2020年11月	漢字学研究会、キャンパスプラザ京都	

#### 4. 主催したシンポジウム・研究会等

No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	第81回漢字学研究会	オンライン	2020年5月	12名	
2	第82回漢字学研究会	キャンパスプラザ 京都	2020年6月	8名	
3	第83回漢字学研究会	キャンパスプラザ 京都	2020年7月	11名	
4	第84回漢字学研究会	キャンパスプラザ 京都	2020年9月	13名	
5	第85回漢字学研究会	キャンパスプラザ 京都	2020年10月	9名	
6	第86回漢字学研究会	キャンパスプラザ 京都	2020年11月	10名	
7	第87回漢字学研究会	オンライン	2020年12月	17名	
8	第88回漢字学研究会	キャンパスプラザ 京都・オンライン	2021年1月	15名	
9	第89回漢字学研究会	キャンパスプラザ 京都・オンライン	2021年2月	15名	
10	初期漢字研究会 第55回～61回	衣笠キャンパス	2020年6月 ～2021年2月	5～6名	
11	日中韓詞学文化交流研究会	Zoomにて開催	2020.11月	14名	立命館大学アジア・日本研究所
12	「日中韓漢籍研究」及び科研費「朝鮮渡り唐本の総合的研究」2020年度研究成果報告会	衣笠キャンパス	2021年3月	11名	

#### 5. その他研究活動（報道発表や講演会等）

No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	大形 徹	魚の楽しみがわかる	東大阪新聞 八尾・柏原版 連載 荘子と語る1	2020年7月15日
2	大形 徹	無用が大用をなす	東大阪新聞 八尾・柏原版 連載 荘子と語る2	2020年8月15日
3	大形 徹	刃毀れしない生き方	東大阪新聞 八尾・柏原版 連載 荘子と語る3	2020年9月15日
4	大形 徹	胡蝶の夢	東大阪新聞 八尾・柏原版 連載 荘子と語る4	2020年10月15日
5	大形 徹	渾沌	東大阪新聞 八尾・柏原版 連載 荘子と語る5	2020年11月15日
6	大形 徹	大鵬の飛翔	東大阪新聞 八尾・柏原版 連載 荘子と語る6	2020年12月15日
7	大形 徹	蝸牛角上の戦い	東大阪新聞 八尾・柏原版 連載 荘子と語る7	2021年1月15日
8	大形 徹	その悪を知らず	東大阪新聞 八尾・柏原版 連載 荘子と	2021年2月15日

			語る 8	
9	大形 徹	朝三暮四	東大阪新聞 八尾・柏原版 連載 荘子と語る 9	2021年3月15日
10	大形 徹	僊（仙）	RADIANT ISSUE14 column #1 白川学の世界	2021年3月26日
11	高島 敏夫	連続公開講座「西周後期の雄篇《毛公鼎》の銘文を読む」全3回	衣笠キャンパス創思館カンファレンスルーム	2020年11月28日・2021年3月13日・27日
12	高島 敏夫	福井県「白川文字学研究会」講座「甲骨文（卜辞）を読む～卜辞から見た婦好（王妃）像」	福井県敦賀市立図書館	2020年12月15日
13	佐藤 信弥	西周金文から見出せる文書	中国史史料研究会 中国史史料研究会第1回セミナー「文書としての中国史史料」	2021年3月13日
14	張 莉	児童の能力を識字に生かすー中国での漢字教育	学会通信「漢字之窗」第2巻第1号（日本漢字学会）PP. 16～22	2020年6月
15	張 莉	「漢字遊遊」漢字なりたち連載	「龍文」随風会(篆刻・書法・金石研究)会誌	2020年4月～2021年3月
16	張 莉	蘇士澍「近百年の日中書法交流について」講演の翻訳	第30回大会記念講演『書学書道史研究』30号 PP.111～121(書学書道史学会)	2020年10月
17	張 莉	『おもしろ漢字』（小学校1～6年生、漢字なりたち教材作成）	大阪教育大学教育学部 美術・書道教育部門	2020年4月～2021年3月
18	張 莉	「女の夢は恐ろしい」	随風会(篆刻・書法・金石研究)講演会(難波市民学習センター)	2020年12月20日
19	松宮 貴之	連載「表象としての東洋書画」	株式会社創樹社美術出版『小さな蕾』	2021年3月～5月
20	松宮 貴之	寄稿「蘭亭序 一働哭の距たりの意味」	株式会社 目の眼『目の眼』3月号 NO. 534	2021年3月

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	衣笠三郎	財団法人〇〇財団	〇〇優秀文化賞	〇〇に関する研究	2014年10月

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	芳村 弘道	朝鮮渡り唐本の総合的研究	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	代表
2	大形 徹	伝統的文化を背景とした植物利用が地域性の形成と地域環境に与える影響に関する研究	基盤研究(C)	2018年4月	2021年3月	分担
3	大形 徹	道教の洞天思想における聖地と巡礼の調査研究およびその東アジア思想文化史への影響	基盤研究(B)	2019年4月	2022年3月	分担
4	石井真美子	銀雀山漢墓竹簡の訳注および思想研究	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	代表
5	萩原 正樹	朝鮮渡り唐本の総合的研究	基盤研究(C)	2019年4月	2021年3月	分担
6	前田 亮	日本文化デジタルアーカイブへの多言語統合アクセスの研究	基盤研究(C)	2020年4月	2023年3月	代表
7	川崎佐知子	「嵯峨本願寺資料」に関する総合的研究	基盤研究(C)	2020年4月	2023年3月	代表
8	草野 友子	中国新出土文献から見る「故事」の変遷と展開	若手研究(B)	2016年4月	2022年3月	代表
9	草野 友子	戦国秦漢簡牘を用いた中国古代思想史の再構築	特別研究員奨励費	2020年4月	2023年3月	代表
10	山田 崇仁	情報化時代における佚文収集の手法についての研究：大蔵経からの抽出を事例として	基盤研究(C)	2018年4月	2022年3月	代表
11	落合 淳思	甲骨文字や金文などの統計分析に基づく漢字の造字理論研究	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	代表
12	佐藤 信弥	甲骨文字や金文などの統計分析に基づく漢字の造字理論研究	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	分担

13	名和 敏光	最新出土資料による陰陽五行思想の総合的研究	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	代表
14	名和 敏光	5～12世紀の東アジアにおける〈術数文化〉の深化と変容	基盤研究(B)	2020年4月	2023年3月	分担
15	高橋あやの	東アジアにおける天文占知識の形成と伝播	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	分担
16	高橋あやの	5～12世紀の東アジアにおける〈術数文化〉の深化と変容	基盤研究(B)	2020年4月	2023年4月	分担
17	松川 雅信	近世日本における儒教儀礼の受容と展開—朱熹『家礼』を中心に	特別研究員奨励費	2019年4月	2022年3月	代表
18	井ノ口哲也	アジアの伝統医学における医療・医学の倫理と行動規範、及びその思想史的研究	基盤研究(A)	2019年4月	2022年3月	分担
19	山田 明広	台湾北部地域の烏頭道士の道教儀礼の比較的研究	基盤研究(C)	2020年4月	2023年3月	代表

8. 競争的資金等(科研費を除く)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	張 莉	日本の書写・書道教育の現状認識と課題—中国の書法教育との対比を中心にして—	第7回公益財団法人日本習字教育財団学術研究助成	2019年9月	2020年8月	代表
2	張 莉	幼稚園児・小学生の漢字教育の改善提案について	文部科学省「タイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」大阪教育大学連携型共同研究助成採択	2020年4月	2021年3月	代表
3	高田 宗平	緯書文献的総合整理と研究	中国・国家社会科学基金・重大项目	2020年12月	2025年12月	組成員
4	洲脇 武志	南北朝期から初唐期における「家学」の成立と展開	(愛知県立大学) 学長特別教員研究費	2020年4月	2021年3月	代表
5	臧 克和	計算機識別商周金文研究	中国哲学社会科学基金重大项目基础研究	2019年9月	2024年12月	首席负责
6	臧 克和	“汉字文明的传播与亚洲共同体的构筑”国际协作项目“讲座开设助成金”	日本一般財団法人ユーラシア財団	2020年12月18日	2021年12月30日	臧克和

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
1	立命太郎	特許(国内)	本人単独	筆頭発明者	****	****	****	日本